

臨時国会始まる!

平和を破壊し、暴走する安倍政権は許さない!



9月26日(月)、第192国会が召集されました。会期は11月30日までの66日間の予定です。安倍首相は、衆参両院で所信表明演説を行いました。

しかし、安保法制=戦争法の「駆けつけ警護」「宿营地共同防護」などの訓練に踏み出したことや、その発動が南スーダンで11月にも予定されているとされている件については一切触れないなど、参議院選挙と同様に「政権に都合の悪いことは一切語らない」という極めて不誠実なものでした。

▼ 参院選で隠した憲法「改正」は憲法審査会での議論を進め、TPPは強行採決を示唆!

憲法改正に関しては、参院選では一切語らなかったにもかかわらず、改憲案を国民に提示するのは「国会議員の責任」として、与野党を超えて衆参両院の憲法審査会で議論を深めることに意欲を示しました。許されることはありません。

TPP(環太平洋連携協定)の早期発効に取り組むことを表明。アメリカでは大統領候補の2人とも「TPPには反対」と表明しています。安倍首相はアメリカの承認を後押しするため、11月8日に実施される米大統領選より前の10月中の衆院通過を目指しています。そのためには強行採決も辞さない方針です。



【写真は、9.19水戸集会】

▼ 沖縄高江のオスプレイ用ヘリパッド建設に執念を燃やすも辺野古新基地には触れず!

沖縄東村高江の米軍オスプレイのヘリパッド(着陸帯)建設について、「もはや先送りは許されません。」と述べ、年内にも完成させる考えを示しました。また日米同盟の強い「信頼関係」のもとで、「抑止力を維持しながら、沖縄の基地負担軽減に全力を尽くす」と強調し、「0.96%のヘリパッドを既存の訓練場内へ移設することで」「20年越しの北部訓練場4000%の返還を実現させる」と述べ、国頭村から東村にわたる北部訓練場の「過半」の返還の代わりに建設する、高江のヘリパッドを年内に実現すると公言しました。

しかし高江ヘリパッドは名護市辺野古の米軍基地建設と一体の基地機能の強化であり、基地負担軽減からはほど遠いものです。一方、国と沖縄県による裁判闘争と県民の反対の声で建設がストップしている辺野古基地建設については一言も触れませんでした。

ご存知ですか? 自民党憲法改正草案

国民縛り戦争する国へ

●九条なくし「国防軍」明記

「戦争放棄」の憲法9条2項を削除。集团的自衛権行使や「軍審判所」など「戦争できる国」に日本を変える。

●「緊急事態」で首相独裁

「外部からの攻撃」を理由に緊急事態を宣言。首相が法律と同じ効力の「政令」を制定。「何人も…指示に従」えと絶大な権限を首相に集中。



●国民の人権を国家が制限

「公益及び公の秩序」が優先、個人の人権や自由を制限。権力を縛る憲法を破壊し逆に国民を縛るもの変えてしまう。

憲法9条守れ、戦争する国反対 これが国民の声です

「日本人がアフリカまで行って戦争する必要があるのか」一国民の疑問は当然ではないでしょうか。

国民の多数の声は憲法9条を守り、平和外交に徹することです。



ブロック会議の開催

秋の平和宣行動の日程決まる!

県北は10月16日～・県南1は10月17日～実施!

県北グループは、10月16日(日)「ひたちなか」から開始、各市の「担当者」「引き継ぎ場所」「責任者と連絡先(電話番号)」を確認しました。ひたちなか(16)～東海(17)～日立(18・19)～北茨城(20)～常陸太田(21)～常陸大宮(22・23)～大子(24)～美和・緒川(25)～那珂(26)です。最後の3日間は、「東海第二原発廃炉の宣伝」をひたちなか(28)～東海(29)～常陸太田(30)を行います。11月上旬には東海第二原発廃炉のA2ポスターの残り全部の張り出しを行う会議を開催し、年内には貼り出し終了としようということも決めました。

県南1グループは9月13日に会議を開催し、10月17日～31日の実施と細部の打ち合わせを行いました。



歓迎! 新入会員のみなさんです。 よろしくお祈りします。

- ** *** さん(つくば市)
- ** *** さん(笠間市)

*ともに平和の声をおおきく広めていきましょう!

平和新聞

2016年10月5日(水曜日)

2121号(毎月5,15,25日発行)

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
(郵送料月額120円) 電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版

平和新聞茨城版 No.759
2016.10/5
発行: 茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

JCO臨界事故を忘れない!

原子力事故をくいかえさせない2016年9.30茨城集会



第17回「JCO臨界事故を忘れない 9.30茨城集会」は、9月24日(土)、東海村産業情報プラザ(東海村)で開催されました。

集会は「原子力委員会は4月20日、稼働40年を超える高浜原発1号機・2号機が、新規制基準に適合するとして審査書を了承しました。40年を超えて運転延長を申請した原発の適合了承は初めてです。老朽原発は劣化だけでなく、技術や設計の古さも問題です。東海第二原発は、運転開始から38年目を迎えています。あらためて福島原発事故の教訓に学びましょう」と呼びかけました。

会は被災して亡くなった方への「黙祷」から始まりました。ついで主催者の田村武夫名誉教授から挨拶がありました。

▼ 静かだが迫力! スライドドラマ 「フクシマ 無念」

記念講演は写真家の菊池和子さんによる「フクシマ 無念」という題で、「原発被害者の漂流・無念を告発するスライドトーク」でした。菊池さんは福島原発事故が発生してからずっと被害者により沿って記録写真を撮り、支援を続けて現在に至

っています。被災した人たちが悲惨な現実を、写真をみるだけでは何気ない日常に見えます。しかしその平凡な(?)日常が徹底的に破壊された苦しみ、悲しみが伝わって来ます。目を背けてはならないとつくづく思いました。

▼ 東海第二原発の再稼働を許さない私たちの運動!

報告は茨城県原発を考える会会長の中村敏夫さん「東海第二原発再稼働どうなる?」「—40年超の高浜原発との比較で考える—」でした。短時間の報告でしたが、東海第二原発は、

1. 耐震性に問題があること
2. 30年稼働を念頭に設計された圧力容器が中性子被爆で脆弱になっていて非常に危険
3. 総延長1400kmある電気ケーブルが難燃性でなく危険をわかりやすく話してくれました。

危険な再稼働を阻止する最大の力は、私たちの運動であることもよく理解できました。



本棚

「フクシマ 無念」 HUKUSIAM REGRET

2016.4.1

避難解除の南相馬市小高区に行く 写真: 菊池和子
ふる里追われて5年 詩: 藤島章治

著者の菊池和子氏は、福島原発事故以来、たびたび南相馬に通った。その小高区は16年4月1日を持って避難指示解除となった。避難解除を目にした被災者と地域の写真記録。5年の長きにわたって翻弄され続けてきた人々とともに、彼らの追われた家や土地を訪ねたときに目にした光景は、なかなか言葉では表しにくい。原発による核災害とは何なのか、そのしわ寄せが誰に降りかかっているのかが如実に表われている光景であった。

著者の菊池和子(きくちかずこ)さんは、1945年中国石門市(現河北省石家荘)生まれ。「筋ジストロフィー患者」「在日韓国人」「北関東大震災」「福島原発」などの写真を発表。

「若者たちがどうなっているんだ」「若者を組織できないか」 第二回理事会でのつくば市平和委員会の理事の発言を紹介します。

つくばでは、「若者たちがどうなっているんだ」「若者を組織できないか」という問題意識があります。どうかして若者を組織できないかと、今回は沖縄高江への支援旅行を計画しました。

ターゲットになる若者を探して、休暇を取らせる。休暇が取れたら職場の内部の仲間知らせ広げます。「それなら一緒に行こうよ」という事になります。20日間くらいは取り組みました。結果としては日数が短かったのでチケットも取りにくく高負担になってしまいました。三泊四日で55,000円くらいでした。

平和委員会の事務局長も参加し、会員以外に4人の参加もありました。みんな沖縄には関心を持っています。ただ沖縄に行く「手立て」と現地に行って「何をやるのかが分からない」のです。そこをエスコートしてやればいいのか。すると反応が出てきます。

その辺はまだ第1回目、参加してくれた人たちとこの後どうつながるかという点ではいろいろ問題を残しています。というのは、この人たちは組合に入っていないからということもある

からです。改めて「若者は難しいな」と思ったのは、組織性というものが殆どありません。みんなで一緒に行動するための「目的を一致させて、話し合って決めていく」と気持ちは全然ないようです。私たちが当たり前と思っていることがそうではないのだと思えます。話し合っている中でも気持ちはあっちの方を向いている。自分の好きなことに集中して会議の中でも自分中心になってしまう。だからこちらもカチンときてしまうということもしばしばでした。やはり忍耐強さが求められると思いました。

でも、やはり取り組んで見てよかったですし、反応も良かったのでもう少し広げようとも思っています。参加した人の反応も良かったので、その人を来月かその頃にもう一度沖縄支援に行きたいと思っています。

そんなこんなで沖縄と連帯に取り組みましたが、一緒に行く仲間を増やすにはやはり地道なアピールが必要だと思いました。あまり難しいことは言わずに具体的な内容でアピールすることです。ただ

事前の学習をするなどの構えは必要です。ただの観光頼みにしてはいけません。その辺は「いろいろだなあ」と思いました。

若者に近づくにはやはり具体的な問題で、一緒に行動しなければダメだと思いました。その点では大変な経験でしたけど、多彩なことをやるのが平和委員会なのでよかったですと思います。

近頃は、「政治は政治、平和は平和という枠組みではなくなっている」という話がありました。市民連合もそういうところから出てきているのだと思います。我々の周りにはいろいろな団体があり、いろいろな取り組みがなされています。それらがだんだん政治に収束してくるのか、そういう時代に入ったのかなという思いがあります。そういう意味からすると、平和委員会のアイデンティティをどのように確認していけばいいのか、という思いもあります。平和委員会の認知度を高める事はやはり必要です。我々の平和委員会も”つくばの地域”にさらに広げるような取り組みをしていきたいと思っています。